

今季の渡りダコの来遊は遅れ、漁獲量は昨年並みになる見込み

(令和6年漁期のマダコの来遊・漁況予測)

1. マダコの生態と茨城県での漁業

茨城県で漁獲されるマダコは、本県沿岸で成長した「地ダコ」と本県より北で成長し、産卵のために秋から冬にかけて外房へ向けて南下する「渡りダコ」がいます。

本県では、12月から翌年2月頃までがマダコ漁の盛漁期で、主に「たこつぼ漁」で漁獲されます。特に鹿島灘での漁獲量が多く、鹿島灘で漁獲されたタコは「鹿島だこ」と称され、地域の特産品として知られています。

2. 昨年漁期の茨城県での漁模様

本県のマダコ漁の好不漁は「渡りダコ」の来遊状況に大きく影響され、過去20年間の盛漁期（12月～翌年2月）の漁獲量は13～219トンと大きく変動しています。

昨年の盛漁期（R5年12月～R6年2月）「全漁法」の漁獲量は58トンで過去20年間で16位、「たこつぼ漁」の漁獲量は52トンで過去20年間で16位となり、不漁水準でした（図1）。

3. 今季のマダコ漁の予測

(1) 来遊時期と水温の関係

本県への「渡りダコ」の来遊は、秋～冬に親潮系冷水が三陸～常磐海域を南下することと関連していますが、親潮系冷水は黒潮に阻まれ、南下する兆しは見えません。

また、黒潮が立ち上がっていることで、本県の141°E以西の表面水温は比較的高い状態（18～20℃台、平年差+0～2.5℃）になっています（図2）。

(2) 他県の漁模様

宮城県では、9～11月に100トン程度の漁で、昨年を下回る漁模様になっています。福島県では、10～11月に30トン程度の漁で、昨年を上回る漁模様になっています（図3）。

また、岩手県では昨年の豊漁と異なり、11月に入って例年並みの漁模様になっています。

今年は、マダコ幼生が北上回遊する春頃、黒潮が強勢で「渡りダコ」となるマダコ資源が南三陸以南の海域に分散しやすい条件は整っていましたが、産卵に向かう「渡りダコ」が2年連続で減少傾向にあり、今年の岩手、宮城の漁獲量からも資源水準はさほど高くないと推察されます。

(3) 今季の盛漁期の来遊・漁況予測

今のところ常磐海域の水温が高いことから「渡りダコ」の来遊は遅れるものと考えられます。今後、水温が低下すれば「渡りダコ」の来遊が期待できますが、資源水準もさほど高くないと推察されるので、昨年、一昨年並の漁模様で、不漁水準になると予測します。

(回遊性資源部 茅根 正洋)

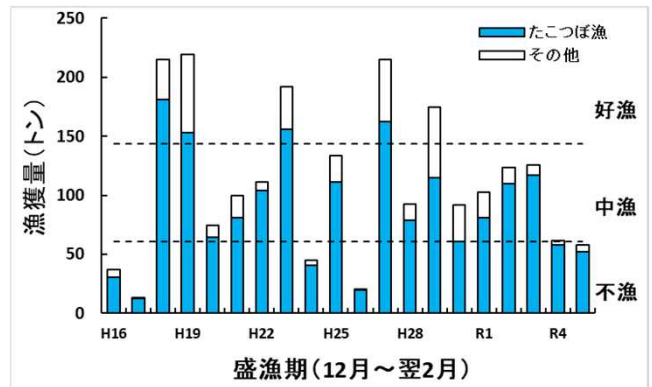


図1 茨城県の盛漁期（12月～翌2月）におけるマダコ漁獲量の経年変化（全漁法）

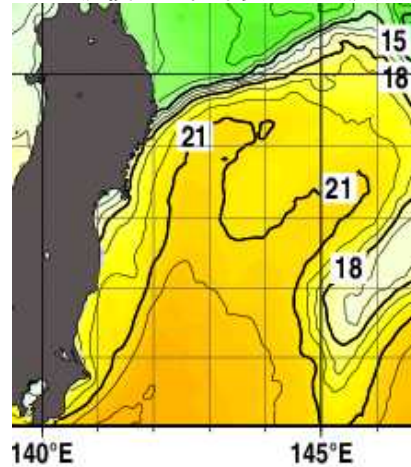


図2 12月2日の表面水温「気象庁」海洋の健康診断表より

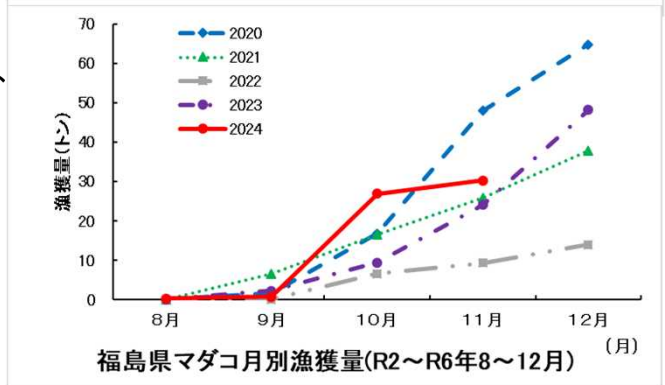
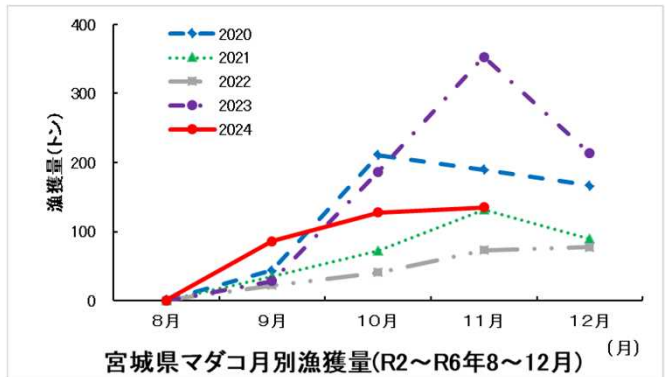


図3 2020～2024（R2～R6年11月）年8月～12月のマダコ月別漁獲量
(上段：宮城県「宮城水産ナビ」
下段：福島県「福島県漁海況速報」より)